

助成事業実施報告書

団体名 らんがく舎

代表者・役職名 氏名 宇田川規夫

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

障害者防災ボランティアコーディネーター育成事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

障害の有無に関わらず、地域でみんながのびのびと暮らして行けるような社会になる事を求めて、学齢期の障害児に地域での教育の場作りとして1979年4月より始めました。彼らが成長するのに伴い、学習の場を社会に求めて販売活動やボランティア活動などにも広がっています。会員数15名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

大規模災害時には多くのボランティアが活躍するが、障害分野でのボランティアはまだ多くありません。東日本大震災、熊本地震においても地元障害者団体を中心として、被災地障害者センターが設立されたが、発災後は自団体の対応に追われ動ける人が少なく、全国のボランティアに頼って活動していたのが現状です。またそのボランティアをコーディネートする力を持つボランティアが少なく、今回の研修で、被災地障害者センター立ち上げから、ボランティアコーディネーターを担う人材の育成を目指します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

東日本大震災や熊本地震では、特定非営利活動法人ゆめ風基金や社会福祉法人AJU自立の家などがいち早く現地入りし、被災障害者の支援にあたっていきました。その経験を共有するため、この2団体から講師をお招きし、「障害者防災リーダー研修会」を開催します。対象は福祉施設職員、障害当事者、災害ボランティアに関心のある人たちなどとし、受講後はゆめ風基金と連携し、災害が起きた時はいち早く現地に駆け付け支援にあたってもらいたいと考えます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

当事者やその支援者の他、一般の災害ボランティア団体や行政、そしてマスコミ3社(取材に止まらず講座参加)等の参加があった事は、障害者防災への今後の広がりを見えさせました。関東では「ゆめ風基金」の知名度は障害者団体でも極めて低いが、広報段階でその名を知らせる事が出来た事は、今後の災害支援につながりを作る事が出来たと思います。ワークショップでは障害者でも他の障害の理解は難しいと言う事も確認でき、きめ細やかな支援体制が必要だと痛感させられました。また災害時には障害者支援のためのハブ機能を持つ組織が必要だとの声があり、今後はゆめ風基金から災害ボランティア団体への働きかけも行う必要性を感じました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の参加者に社協が1人もいない事は残念でした。社協には多くの障害者団体が登録しており、日常から支援もしている上に、災害時には災害ボランティアセンターの運営の中心になっています。今後も働きかけを強化して、災害時にきめ細やかなボランティアセンター運営ができるよう協同していきたいと思えます。JVOAD や災害ボランティア団体は、障害者団体にとっては普段付き合いの無い相手であり、今後は随時情報を届ける事で、障害者団体の防災意識や災害対応力の向上を図ってもらいたいと思えます。また災害ボランティア団体も、障害者を含む困難を抱えた被災者をどう支援できるかを、今回参加した団体との協同体制から考え続けるよう働きかけをしていきたいと思えます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

障害者防災リーダー養成講座

ゆめ風基金ではこれまで大規模災害時に障害者支援を行ってきましたが、昨年の熊本地震を見ても、災害時に障害者が取り残される状況は何ら変わっていません。

また災害時にボランティアセンターはすぐに立ち上がるものの、障害者の支援を行うには専門的知識が必要とされ、ボランティアセンターで障害者支援を行うのは難しい現状があります。ゆめ風基金では東日本大震災で岩手、宮城、福島の3カ所において現地団体と協力し、被災地障害者センターを立ち上げ、また熊本地震でも同様の支援センター立ち上げを行い、運営のノウハウや資金の提供を行って来ました。

今後の大規模災害を考えると、ゆめ風基金だけでは力不足なところもあり、障害者支援センターの立ちあげや役割などについて多くの人に学んでもらおうと今回の講座を企画しました。

2018年2月7日(水)
10:30 ~ 16:00

障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752
TEL045-475-2055 (地図は裏面)



— 講師 —

八幡 隆司 認定NPO法人ゆめ風基金 理事・事務局長

水谷 真 社会福祉法人AJU自立の家、わだちコンピュータハウス所長

対象 障害福祉サービスに携わっている方、自立生活センターに関わっている方、または被災地障害者支援センター運営に関心のある方

参加費 1000円(資料代)

定員 80名

(定員になり次第締め切らせていただきます)

プログラム

10:30 被災地に求められるもの

11:20 休憩

11:30 被災障害者センターの運営について

12:30 休憩

13:30 グループワーク

被災地障害者センターのニーズについて

14:50 休憩

15:00 まとめ、質疑応答

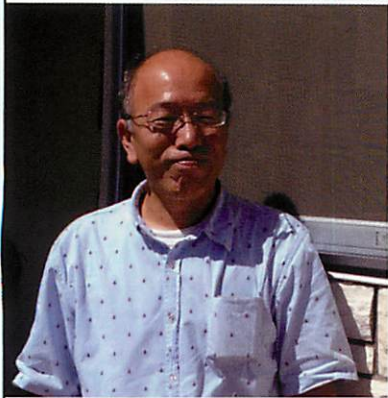
16:00 終了

主催 らんがく舎
共催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団

手話通訳・要約筆記等必要な方はお申し出ください。

*この事業は真如苑の助成を受けて実施しています。

講師紹介



八幡隆司（やはたたかし）

ゆめ風基金理事・事務局長

知的障害者授産施設指導員を経て、「豊能障害者労働センター」設立に関わる。1995年1月 兵庫県南部地震障害者救援本部を設立し、全国のネットワークの協力を得て 阪神間の障害者支援にあたる。以降様々な災害支援に当たる。それらの経験から障害者市民防災提言集、防災ハンドブックなどを手がける。2011年東日本大震災、2016年熊本地震でも現地入りし、地元団体と被災地障害者センターを設立し支援にあたる。



水谷 真（みすたにまこと）

社会福祉法人A J U自立の家、わだちコンピュータハウス 所長
名古屋大学教育学部教育心理学科卒業。2000年9月の東海集中豪雨では、法人上げて被災した障害者支援と一時保護にあたった他、2001年度社会福祉医療事業団の助成を得て、被災した障害者100名の聞き取り調査を基に「災害時における障害者支援に関する提言」をまとめた。2010、2011年度、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成により「GIS災害時要援護者支援システム開発事業」「被災地の障害者支援および地域福祉底上げ事業」を行い提言書をまとめた。
主な著書『自立を選んだ障害者たち』『介護保険に任せられないー障害者の生活から発想する支援システム』など。

問い合わせ・申込先

らんがく舎

〒222-0011

神奈川県横浜市港北区菊名 4-10-37

TEL・FAX 045-431-4070

Email : n.udagawa@mac.com



申込書

氏名		住所	
		〒	
電話番号		メールアドレス	
障害の有無	介助者の有無	必要な支援	有の場合、具体内容
有 無	有 無	有 無	

申込はらんがく舎までメール、FAX、郵送のいずれかでお願いします。
参加費は当日お支払いください。